

## 会 議 録 (要 旨)

会 議 名	第1回武蔵村山市健康増進計画・食育推進計画策定懇談会
開 催 日 時	令和3年7月6日(火) 午後1時30分～午後3時05分
開 催 場 所	市民会館展示室
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：堀口委員、成田委員、田中委員、指田委員、垣委員、原田委員、宮下委員、井波委員、安部委員 欠席者：江郷委員、吉村委員、江川委員 事務局：市長、健康福祉部長、子ども家庭部長、健康推進課長、子ども子育て支援課長、健康推進課健康推進係長、同課健康推進係主任、子ども子育て支援課母子保健係係長、同課母子保健係主任、委託業者1名
議 題	報告事項 (1) 武蔵村山市健康増進計画・食育推進計画策定懇談会設置要綱について (2) 武蔵村山市健康・食育に関する市民意識調査結果について 議題 (1) 座長及び副座長の選出について (2) 武蔵村山市健康増進計画・食育推進計画策定懇談会に関する運営要領(案)について (3) 武蔵村山市第三次健康増進計画・食育推進計画策定スケジュール(案)について (4) 武蔵村山市第三次健康増進計画・食育推進計画骨子(案)について (5) その他
結 論 (決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。)	議題(1)について： ・座長は堀口委員、副座長は成田委員とする。 議題(2)について： ・事務局案のとおり決定する。 議題(3)について： ・会議の開催方法について、ハイフレックスでのオンライン化（集合形式とオンライン参加の組み合わせでの実施方法。以下「ハイフレックス型」という。）を検討する。 議題(4)について： ・策定懇談会では、ライフスタイルの変化を加味しながらどのようなアプローチをすれば課題解決につながる取組ができるか意見をいただく。 ・令和2年度の目標値は、コロナ禍の実施であることを加味した見方が必要である。 ・アプローチが難しい年代への発信方法を検討する。 議題5について： ・次回以降の会議日程について、8月は11日（水）午後1時30分からとする。 ・9月以降の日程は、ハイフレックス型での実施を検討する。
審 議 経 過 (主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。)	報告事項 (1) 武蔵村山市健康増進計画・食育推進計画策定懇談会設置要綱について ● 資料1「武蔵村山市健康増進計画・食育推進計画策定懇談会設置要綱」について説明  (2) 武蔵村山市健康・食育に関する市民意識調査結果について

(○=委員、  
●=事務局)

● 資料2-1「武蔵村山市健康・食育に関する市民意識調査報告書(冊子)」、資料2-2「武蔵村山市健康・食育に関する市民意識調査結果経年比較(抜粋)」について説明

○ 資料2-2の1ページ、問17で「あなたはフレイルという言葉を知っているか」とあるが、意味を教えて欲しい。

● フレイルとは、高齢になっていくに従って筋力・認知機能が低下していく結果として、生活機能に障害が出たり、要介護状態などになる危険性が高い状態になることである。そうなる前に早期に対策を行うことで改善が見込まれるので、対策をしていく必要があると考えている。

○ フレイルについて、横文字だから市民の方が分からないという話もあると思う。加齢とともに心身とも衰えている状態のようなことである。フレイルの関連性として大きく3つあると思う。「身体的フレイル」「社会的フレイル」「精神・心理的フレイル」と、3つに分けてアプローチしていかないと、フレイルの問題はなかなか解決していかないとと思う。

身体的フレイルの中に「ロコモティブシンドローム」や「サルコペニア」がある。「ロコモティブシンドローム」は、日本語で言えば運動機能の障害である。運動機能の障害とは、リウマチや関節痛、手首、腰、膝の痛みなど、コンドロイチンを飲むとよくなるというもので、それができなくなると「サルコペニア」といって筋力低下となり、フレイルの1つの「社会的フレイル」ということになる。あとで運動のところに出ていると思うが、社会的に引きこもりだったり、困窮だったり、参加したいけれどお金がないから参加できないなどあって社会性の孤立という状態になる。「精神・心理的フレイル」は、例えば抑うつ状態だったり、認知機能の低下があって参加できない、認知症だから参加してはいけないと言われていたりすることが原因としてある。そういうアプローチは3つ欲しいと思っている。フレイルという言葉でなく、日本語で易しく言えば理解できる。アプローチをしていくのだったら、運動する前に紹介したり、広報で紹介したりしていけば、もっと関連性のあることだということが分かると思う。

#### 議題

(1) 座長及び副座長の選出について

● 資料1「武蔵村山市健康増進計画・食育推進計画懇談会設置要綱」について説明

○ 座長を堀口先生でお願いしたい。

● 座長に堀口委員をお願いしたいという意見があった。副座長には成田委員ということになるが、いかがか。

(一同異議なし)

(2) 武蔵村山市第三次健康増進計画・食育推進計画策定懇談会に関する運営要領(案)について

● 資料3「武蔵村山市健康増進計画・食育推進計画策定懇談会に関する運営要領(案)」について説明

○ 傍聴に関することと、議事録をしっかりとって、一般市民にも分かるように公開をするというのが大きな柱だと思うが良いか。

(一同異議なし)

(3) 武蔵村山市第三次健康増進計画・食育推進計画策定スケジュール

ル（案）について

- 資料4「武蔵村山市第三次健康増進計画・食育推進計画策定スケジュール（案）」について説明
- 開催の方法について、コロナ禍ということもあるのでオンラインという考えはないのか。集まれば当然、感染のリスクもあるので、できることならオンラインにすべきでないかと思う。
- 今の意見に追加で、ハイフレックス型という方法はどうか。オンラインで参加する人とここに集まって参加する人とで実施しているところが多いと思う。
- 全部をオンラインにするのがベストとは思っていないので、検討いただけないか。例えば座長だけは来るとか、オンラインで参加する環境がない人はここに来るという方法もある。
- 人により状況が異なると思うが検討させていただく。
- 市民に会議を公開することについても、今日の調査結果を見ると、専業主婦の方も割合的に多いので、ネット環境があれば傍聴をしやすくなるのではないか。前向きに検討いただきたい。

(4) 武蔵村山市第三次健康増進計画・食育推進計画骨子（案）について

- 資料5-2「武蔵村山市第二次健康増進計画・食育推進計画概要」、資料6-1「計画策定にあたって～武蔵村山市第三次健康増進計画・食育推進計画策定のポイント～」について説明
- 資料6-2「武蔵村山市第二次健康増進計画・食育推進計画目標値達成状況一覧」について説明
- 資料6-3「武蔵村山市第三次健康増進計画・食育推進計画構成（案）」、資料6-4「武蔵村山市第三次健康増進計画・食育推進計画骨子（案）」について説明
- 資料6-1にはページ数が印字されているが、資料6-3にもページ数を印字してもらえると説明が分かりやすいのでお願いしたい。

市民の一人一人の健康づくりを支える環境づくりの一環として、ボトムアップではないやり方もお願いしたい。

- 資料6-4の13ページ、「朝食を食べる頻度」について、20代の方が低いというデータがあり、例えば「なぜ20代の方は朝食を食べる率が低いのだろう、どうすれば食べる率が高くなるのだろう」など、仮説を置いてP D C Aを回すようなことはされているか。
- 特に20歳代ということはないが、「朝食を食べましょう」ということに関しては学校教育が基本となる。そこで生活習慣をつけていただきたいということで、学校教育の中で指導していただくよう進めている。
- 例えば、20代の方が他の年代に比べてなぜ朝食摂取率が低くなるという何らかの仮説があると思う。例えば今の時代の20代の方は、SNSやゲームをやったり動画を見たり、夜遅くまで起きていて、朝は出勤ギリギリになってしまうから食べられないというのも一つの仮説である。もう一つの仮説としては、20代の方は朝食のイメージが違って、私たちの世代は食卓でパンだとかご飯を食べるが、今の人たちは通勤途中でスムージーやカロリーメイトみたいなワンハンドドリンクを飲み、それを朝食と捉えている方もいると思う。では、その世代の人たちに家で食べるごはんやパンの朝食ではなくても、通勤途中の栄養補助食品、スムージーは摂っているとか、そういうところを追及

していけば、また答えは変わってくる。せつかくデータを取っているんで、これを改善させようとしたらそういう仮説を置いて、そこまで取っていかないといけないかなと思う。なぜできないのか、ではどうすればできるかという発信をすれば、もっと改善するかなと思う。ただこれをやっていっても、また次の5年後もアンケートで「朝食を食べているか」「おかずは揃っているか」といっても、データが集まるだけである。どうやってプロモーションして、市民の人たちがキャッチして、それで反映していくか。5年の期間があるので、実行して、PDCAを回して、評価して、また次の計画に入れていかないと、悪くなっていくところはどんどん悪くなっていく。なかなか民間の力を借りないと難しい。

- 毎年、各主管課に取組に対する進捗や達成の割合を調査している。この計画についてもPDCAサイクルで回していくところで、原因の分析をして、それに対してアタックしていくことを繰り返していく。また、毎年この計画に基づく取組の状況を、健康づくり推進協議会という会議体にも示し、専門家から意見をいただきながら、こういったアプローチしていくのかということを進めていく。

最近の若い方たちの朝食の摂り方など、ライフスタイルが変わってきていると思うので、そういうところも加味しながらこういったアプローチをすれば欠食率を下げる取組ができるのかということ、まさにこの懇談会で意見をいただきたい。

- 資料6-2、部活動の加入率の説明で、クラブチームに所属している人もいるということがあったが、「部活動や課外活動」と加えればよいのではないか。部活動は運動部だけなのか、文化部も含めているのかも分からない。
- 恐らくこれまでとってきたアンケートの質問に引きずられているのだと思う。時代が変わると、朝食の食べ方もイメージも変わってきていて、時代に即した質問文に変えたいのだけれど、質問文があまり変わってしまうと比較時に困るというような話となる。逆にあまり数字に引きずられずに委員から意見をいただいて、この場ででも「次回から聞き方を変えよう」というふうに言うだけでいいと思う。独自に質問を変えるということがなかなかできないと思うので、そういう意見も今後言うていただければと思う。
- 朝食の欠食率について、20歳代が多いというのは武蔵村山市だけではなく全国的にその傾向がある。実際の取組として、欠食を減らす等は、どうしても小学生に対して朝ごはん運動とか、そういうところに力を入れがちで、どうしても社会人になりたての20代の人たちへの欠食を防ぐ努力というのは、なかなか自治体でもまだできていないところがあると思うので、今回の策定においては、そこも含める努力をしていく必要があると思う。実際に取組を行う上でも、他でのいろいろな事例があって、民間企業の「まるのうち保健室」といって、丸の内のワーキングウーマンの方たちに対し、朝食の欠食も含め、次世代の健康も加味した取組をされている。色々な事例もあるので加味しつつ、この自治体内でどのようなことに取り組めるのかということ、今後盛り込んでいけば、改善にもつながるのではないかと考えている。

事務局側に質問だが、この目標値の結果は、令和2年度はコロナ禍での実施になっており、だいぶ結果が変わってきている部分があると思うのでそこを加味した見方が必要だと思う。例

えば夕食を家族と一緒に食べる割合は目標値に達しているが、コロナ禍で夜に外出する時間が少なくなり、家庭にいる人が増えたための結果かもしれないし、受診率の減少も、コロナ禍のため健診等の受診に行く人が減ったためではないかとも考えられる。例えば、令和元年度以前にとったデータと令和2年度で大きく変化しているところには着目して、今後のウィズコロナ、アフターコロナを踏まえた見方をする必要があるのではないかと思った。

- 今の件について、令和2年度のコロナ禍において健康推進課におけるがん検診等の受診者数等は大幅に低くなっている状況である。令和2年度当初に緊急事態宣言が発令され、その頃、どのような対策をとったら良いのかまだ分かっていないため、市の検診事業や健康教室の事業等は一旦ストップした時期もある。途中から再開はしたが、やはり受診者数が減っている実態がある。また、令和2年度の調査結果がまとまれば示したい。
- 保育園にずっといたが、食育などの検討について、もっと市民に分かっていただく、何か知らせる良い方法はないかと思った。資料を見て、食べるということは、生きていく上でリズムというのがすごく大事で、基本的なことからもっと知っていくといいのかなと思った。
- 先ほど話のあった20代にどうアプローチするかという話について、以前食育会議でも、その年代が一番アプローチしにくいという話があった。アンケートをやっている、そこに発信して聞いてもらわないと欠食率は下がらないと思うので、発信の仕方をどうにか考えないといけない。何かいい方法がないかと思っている。
- 先ほどから話に出ているように、やはりコロナ禍ということで、非常に普及・啓発が難しいと感じている。これがいつまで続くのか、また、どういう形で、どこまで元に戻るのか。大きなイベント等人を集めてできない中で工夫しながらやっていきたい。
- 次回会議で「第1章」「第2章」について、皆さんから忌憚ない御意見をいただきたく、よろしくお願ひしたい。

(5) その他

- 資料7「次回以降の会議の開催日程」について説明
- 8月11日、12日のどちらかで調整いただきたい。
- 8月11日に第2回の開催を予定させていただきたい。
- その後の日程だが、先ほどハイフレックス型の話が出たので、事務局で検討してもらえないか。来月すぐには無理かもしれないが、新たな日常に向かわないと、やり方が同じで計画にだけ新たな日常というものもどうかと思った。9月に関しては、一度事務局で持ち帰って議論していただいてからの方が良いと思う。
- 承知した。
- 次回は8月11日午後1時30分とする。9月以降は開催方法を含め、事務局で検討していただく。
- 参考として資料を配布させていただく。30分以上のスポーツの提案で、体育協会として、市民の健康づくりということで、シニアスポーツの振興事業として9月24日にウォーキングを行う。狭山丘陵をコースに、有吉正博先生を講師に迎えて実施する。

	閉 会	— 以 上 —
--	-----	---------

会議の公開・ 非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公 開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非 公 開 ※一部公開又は非公開とした理由 <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black; height: 40px; margin-top: 5px;"></div>	傍聴者： <u> 0 </u> 人
-----------------	--	-------------------

会議録の開示・ 非開示の別	<input checked="" type="checkbox"/> 開 示 <input type="checkbox"/> 一部開示(根拠法令等： ) <input type="checkbox"/> 非 開 示(根拠法令等： )	
------------------	--	--

庶務担当課	健康福祉部 健康推進課(内線：212)
-------	---------------------

(日本産業規格A列4番)